



日のかさの下で

三位一体の主日はこの教会の祝日。教会（小教区）は普通、聖人に捧げられている。聖人の保護を願って。でも、この教会は初代の主任司祭が「三位一体の神」に捧げた。だから三位一体の主日がこの教会の祝日になった。

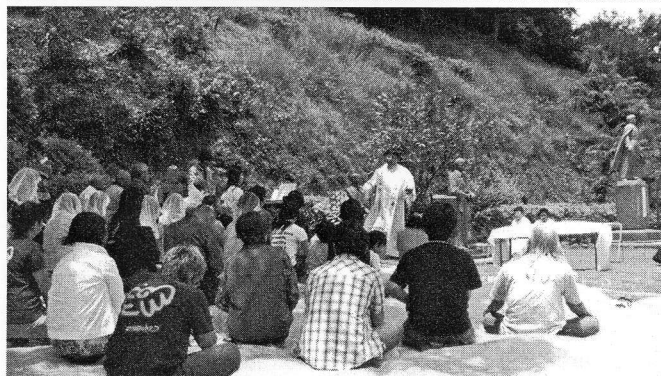
この日は「小教区ふれあいの日」。今年はバスハイク巡礼をした。目的地は昨年列福された殉教者、ペトロ岐部司祭の生誕の地、大分県国東半島の「ペトロ岐部記念公園」。

県外ではあるが、この教会から記念公園まではバスで二時間

あまり。参加者八十人。二台の大型バスで行った。老いも若き

もそれぞれのペースでゆったりと過ごす。バスの中は自由なお

しゃべり。親睦を深めた、と思う。



日のかさ（日暈）の下、記念公園で三位一体の神を講えるミサ

バスから遠く国東半島を見ると空は曇っている。よかった。風もあるようだし、暑い日差しを浴びなくてすむ。神に感謝。ところが記念公園に着くとすっかり晴れてしまった。日が照りつける。木陰のベンチにお年寄りの皆さんに座ってもらい、持ってきたブルーシートを拡げ、長机に白い布を掛けて祭壇を作り、ミサの会場を準備した。爽やかな風が吹き抜ける。日が当たっても暑くない。祭壇の後ろにある岐部司祭の像のマント



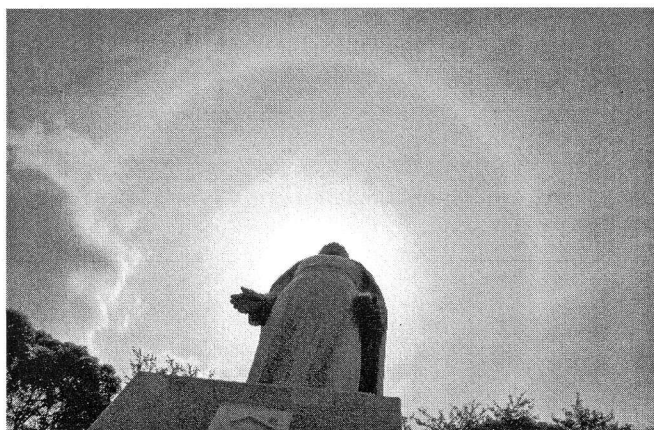
やまもと まこと
山元 眞 神父

が実際になびいているようだった。気持ちがいい。神に感謝。

当日の第一朗読は申命記。神がなさったことを思い起こしてみなさい、と呼びかける。終わりの数節を引用したい。「あなたは、今日、上の天においても下の地においても主こそ神であり、ほかに神のいないことをわきまえ、心に留め、今日、わたしが命じる主の掟と戒めを守りなさい。そうすれば、あなたもあなたに続く子孫も幸いを得、あなたの神、主がとこしえに与えられる土地で長く生きる」(4・39—40)。

第二朗読はローマの教会への手紙。「あなたがたは…神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、『アッバ、父よ』と呼ぶのです。この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に証ししてください」(8・15—16)。

そして福音の朗読。ガリラヤの指示されていた山で弟子たちはイエスと会う。疑う者もいたが、イエスは近寄って来て言う。「…あなたがたは行って、すべ



ての民をわたしの弟子にしなさい。…わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28・16—20)。

遠くローマまで旅をし、司祭に叙階されて迫害下にある日本

に戻り、信者を励まし、江戸で殉教したベトロ岐部司祭。彼もまたこれらの同じみ言葉を聞いた。そして今日はわたしたちと一緒に聞いている。

二〇〇五年に創立五十周年を祝ったが、その時と同じ風、そして光を感じた。あの時は一〇〇〇人を越える方々と園庭で感謝のミサをささげたが、今回は地に座ってみ言葉を聞いた。「上の天においても下の地においても主こそ神」。

ミサが終わって教えてもらった。ミサが始まった時からずっと太陽の回りに虹があった。見上げたら「日のかさ」(日暈)があった。生まれて初めて見た。神に感謝。

【教会ホームページ】

[http://www.](http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp/)

[yukuhasi.catholic.ne.jp/](http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp/)

【ブログ】

<http://micheleyam.exblog.jp>

＝善き隣人として奉仕する＝

葬儀の御用は弊社に

TEL 03-3702-0156 FAX 03-3702-0159

※御報参上・手続代行他。

〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-9-6

(株) 沼崎商会

サマリア式典部 沼崎 馨